



亀崎潮干祭から考える 三河湾のアサリ

亀崎潮干祭 半田を代表する海浜に山車を曳き下ろす祭り

神前神社の祭礼

5月3、4日の2日間にわたり開催され、亀崎地区の5つの各組が所持する山車は、まちの中を曳かれた後に海浜へ曳き下ろすのが特徴。

神前神社前の砂浜

山車を曳き下ろす砂浜は、伊勢湾台風被害対策による護岸整備とともに消失。1993年曳き下ろし再興を願う祭人の要望で人工の砂浜を造成。

亀崎名物の串アサリ

アサリを天日干ししたものであり、大粒アサリの漁獲時期と潮干祭の時期と重なるため、祭りでの酒宴やおもてなし等に振舞われるごちそう。



曳き下ろされる山車

アサリ 漁獲量日本一（愛知県）のアサリの減少

アサリの生態

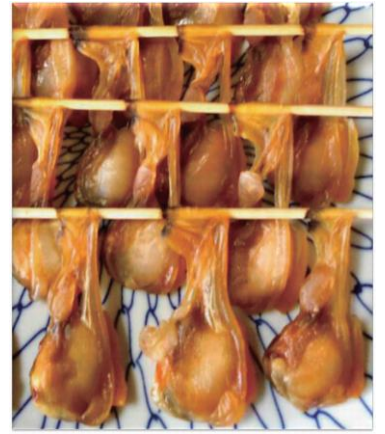
稚貝は、水の中を流れながら適した砂地を探し、土中へ潜る。やがて成長した成貝は、春と秋の年2回(または年1回)に産卵。

生息環境

亀崎に限らず愛知県内の多くの海岸では、干拓や埋立、護岸工事等をおこなった結果、アサリが生育できる砂浜(干潟)は消失。

大振りのアサリ

かつては、亀崎の各家庭で作られていた串アサリ。干すのに適した大振りのアサリの漁獲量減少により、作る家庭も減少。



串アサリ

ワークショップ開催報告 亀崎文化とアサリ環境保全を議論

亀崎の祭り関係者と水産専門家を交えてアサリの文化と生育を学習

亀崎の地域交流施設「かめとも」でワークショップを開催し、潮干祭りの時期に食される串アサリを通して、三河湾のサステナビリティについて考えた。



講演の様子

潮干祭りの魅力についての講演

講師：藤井敏夫氏（亀崎潮干祭り保存会相談役）

三河湾のアサリの状況に関する講演

講師：竹内喜夫氏（愛知県水産試験場総括研究員）

アサリの浄化実験

アサリと海水が入った水槽に米のとぎ汁を入れ、濁った海水が浄化されていく過程を体験。

亀崎のまち歩き

石川「かめとも」館長案内のもと、昔ながらの建物と空き家再生の新しい建物が融合したまちや造成された砂浜を見学。



まち歩きの様子

中部ESD拠点「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

は、文化と生物の多様性を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなう活動で、トヨタ環境活動助成を受けています。市民一人ひとりが、文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解するために、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、祭りに関わる植物・食べ物（食材）の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催しています。

